

建設常任委員会行政視察報告

建設常任委員会では、静岡市と名取市を行政視察しました。

概要は以下のとおりです。

(実施期間) 令和5年5月17日～5月19日

(視察都市) 静岡市、名取市

(視察内容) 静岡市：静岡型MaaS基幹事業実証プロジェクトについて
名取市：閑上かわまちづくり事業について

〔静岡市〕

静岡市では、静岡型MaaS基幹事業実証プロジェクトについて説明を受けた。静岡市では、バス利用者の減少、バス路線維持費の増加、運転士不足等に伴い、サービスの向上が困難な状態となっており、持続可能な公共交通網の構築が課題となっている。そのような中、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであるMaaSの活用を通じて、誰もが安全・安心・快適に移動することができ、多彩な市民活動や住み続けられるまちを下支えする社会インフラを構築し、デジタル技術の活用とリアルサービスの充実の両輪で取り組む必要がある。そこで、行政、交通、観光、商業、金融、福祉の各団体、システム会社やコンサル等の技術会員等から構成される静岡型MaaS基幹事業実証プロジェクト（MaaSコンソーシアム）を設立し、令和元年度以降、AI相乗りタクシーやAIオンデマンド交通をはじめとして、MaaSに関する様々な実証実験を継続的に実施している。MaaSによる交通サービスの実装が、人口減少・少子高齢化社会においても、持続可能なまちづくり、住み続けられるまちづくりに大きく寄与するとともに、単に交通のことだけに留まらない大きな社会的意義のある事業として期待されている。

委員からは、MaaS技術会員の募集に関する課題、改善点や、MaaSコンソーシアムの実施体制及び、中山間地MaaS実施における法との兼ね合いなどについて質問が出された。



(静岡市での視察風景)

〔名取市〕

名取市では、閑上かわまちづくり事業について説明を受けた。

平成23年の東日本大震災により大きな被害を受けた名取市閑上地区は、震災復興計画を策定し、現地再建のまちづくりに向けた取組を開始した。閑上地区かわまちづくり事業においては、国土交通省によるハード整備として、①堤防側帯（商業施設かわまちてらす閑上により商業利用）、②管理用通路、③船着き場、④多目的広場、⑤階段護岸、⑥親水広場を整備した。また、閑上地区かわまちづくり計画登録と併せて承認された、河川防災ステーション計画に伴うハード整備も並行して実施した。市によるソフト・ハード事業としては、①商業施設の運営団体である㈱かわまちてらす閑上の立上げ支援、②民間舟運船事業者の公募及び運行開始に係る支援、③まち側側帯における散策路造成工事、④各種案内看板の設置、⑤各種イベント実施に係る支援を行った。また、河川防災ステーションへの水防センター整備を行った。

成果として、（1）全国的にも例が少ない河川堤防側帯に恒久建造物を建設し、商業活動を実施、（2）船着場において民間事業者が周遊船事業を実施、（3）階段護岸において民間事業者がSUP教室を実施、（4）親水広場においてかわまちてらす閑上BBQ事業を実施、（5）河川防災ステーションの水防センターを平常時震災復興伝承館として利用、（6）令和3年度かわまち大賞を受賞などが挙げられた。一方で、かわまちてらす閑上の運営継続に向けた取組や、季節を問わず利用者が訪れるための仕掛けづくりなどが今後の課題となっている。

委員からは、かわまちてらす閑上の年間来場者数や経営状況、河川敷に恒久建造物を建設することに対する考え方などについて質問が出された。



（名取市での視察風景）